

列状間伐現地検討会の開催について ～奥州市 生母生産森林組合所有林で開催～

1 はじめに

持続的な森林経営を推進するためには、集約化した低コストな搬出間伐の促進が必要となっています。

このようなことから、去る9月30日（火）に奥州市で林業関係者約60名の参加のもと、列状間伐現地検討会を開催しました。

2 列状間伐の実施計画について

現地検討会は、森林経営計画に基づく森林施業に取り組んでいる生母生産森林組合の所有林で行いました。生産森林組合では、平成25年度から奥州地方森林組合に間伐作業を委託し、その手法を列状間伐としました。

平成25年度の搬出間伐は面積14.5ha（スギ）約1,000m³の素材を生産し、平成26年度は面積9.5ha（スギ）で約1,000m³を生産することとして、現場に着手しました。

森林組合では、昨年度の作業において、①準備不足による現場作業ロスが発生 ②作業システムの構築の遅れ ③列状間伐への戸惑いなどの課題があったことから、この改善に向けて取り組むこととしています。

3 現地検討会の開催について

現地検討会は、森林組合、生産森林組合、県南広域振興局等による共催としました。開催趣旨は、森林組合での課題等に資するため、豊富な経験を有する他の地域けん引型林業経営体などからの技

術的な助言を得ようとしたものです。

森林組合からは、平成26年度計画地は立木密度が様でなく、列状間伐を基本としながらも、場所によっては定性間伐も導入したいなどの説明がありました。



4 関係者からの助言などについて

意見交換の中では、次のような意見がありました。①列状、定性など間伐方法を明確に統一しなければ、現場は混乱する ②作業道の間隔が狭すぎる ③長尺材を採材した方が需要者のニーズに応えられる など。

急遽御参加いただいた岩手大学岡田教授からは「間伐を通じた森林を循環させる産業の構築に向けて取組を加速させるよう」との助言がありました。

当普及区では、引き続き列状間伐など低コスト搬出間伐の促進に向け、このような検討会などを開催していく予定です。

